

事業所名 キッズベース <ー・ちよき・ぱー

支援プログラム

作成日

令和7年

1月

28日

法人（事業所）理念		生き抜く力をはぐくむ						
支援方針		5領域への働きかけを通し、「できる。できた。たのしい。」がどんどん広がって、誰もが自分を肯定しながら、笑顔で輝いて生きていける、そんなきっかけの場所になりたいという願いをもって支援する。ひとりひとりの歩みに合わせて環境を工夫し、様々な体験を重ねていく。チャレンジする気持ちを大切に、限界を決めずに応援する。						
営業時間		9時	30分から	17時	45分まで	送迎実施の有無	あり	なし
支 援 内 容								
本人支援	健康・生活	子どもをじっくり観察し、子どもが出すサインを見逃さない環境を整える（チームでの支援）。子ども自身が健康で安全な生活を作り出せるよう、家庭や保育所・学校と連携して、排泄や食事、衛生など生活スキルの向上を支援する。 ○体調管理、感染予防等の啓発○畑作業・収穫○クッキング○片付け・そうじ○ヨガストレッチ○タイマーなどを使った時間管理の習慣						
	運動・感覚	感覚に特性がある場合は、過敏さや鈍麻に合わせた環境調整と適切な道具の使用などで、辛い思いの軽減を図る。柔軟に工夫を楽しみながら、姿勢の保持や動作の習得を支援する（体幹トレーニング・PTによる専門的支援）。 ○PTによる体幹トレーニングや走り方教室・縄跳び○バランスボール○BBA（足を伸ばすアクティビティなど）○庭でのプール遊び						
	認知・行動	情報があふれる現代社会において、必要な情報を選別しながら理解し行動に生かすことは誰にとっても容易ではない。特性にあわせた環境調整をしながら、視覚・聴覚などそれぞれの子どもの理解しやすい感覚から取り入れられるよう工夫し、スモールステップで理解や行動につながるよう支援する。 ○ビジョントレーニング○アート（工作・書道・生け花・和紙作りなど）						
	言語コミュニケーション	子どもが自分の気持ちを伝えられる信頼関係を基盤に、言葉をはじめ、カード、指差し、手話などさまざまな意思伝達方法を用いて、コミュニケーションの幅が広がるよう支援する（STとの連携）。 ○英語教師による「英語で遊ぼう」○リトミック○ソーシャルスキルトレーニング						
	人間関係社会性	障害の有無に関わらず、子どもから高齢者まで、名前を持った1人と1人が顔を合わせてつながり、お互いを知る中で、それぞれの生き方と幸せを尊重できるような土台を築く。呼び名を自分の心地良い名前でも子どもも大人もスタッフも呼び合う。集団が苦手な子どもも心地良い居場所を獲得できるよう支援していく（秘密基地的な一人の空間も用意する）。 ○季節のイベント（梅シロップづくり・七夕・ハロウィン・クリスマス・書初め・節分など）○社会科見学（アート展・ロボコン・美術館・図書館）○買い物体験						
家族支援		連絡帳や写真・動画で活動の様子をお伝えし、成長や課題を共有する。送迎の際などにゆっくり話せる雰囲気や傾聴する。心理士による面談。保護者交流の場を持つ。			移行支援	学校を訪問し、担任教諭やスクールカウンセラーと面談してそれぞれの場所での様子などを共有したり、医療療育センターでの診察に同席する、言語訓練の担当STと連携するなど包括的な支援に努める。		
地域支援・地域連携		地域の文化祭に作品を出展したり、保育園や小学校、支援学校行事に同席させてもらうなど、交流をはかる。防災訓練などの行事を地元の防災組織と共同で行ったり、ほかの児童発達支援事業所や就労支援事業所との交流行事を実施する。			職員の質の向上	定期的な社内研修の実施。社外研修への参加機会の提供と支援。その日の支援開始前のミーティングで、ひとりひとりについての支援の課題を共有し、目的意識を持つことで支援のやりがいと喜びにつなげる。誰もが意見を話せて、チームの大切な一員であることを自覚できるような職場環境を社風とする。		
主な行事等		○防災・避難訓練（飯ごう炊飯）○阿南消防さんによる消火訓練 ○遠足 ○季節行事（お花見・梅シロップづくり・七夕・ミニ運動会・文化祭出展・ハロウィンパーティー・クリスマス会・年賀状作り・年末大掃除・初詣・書初め・節分など）						